

Q：史実どおり描く部分とストーリーを創作して描く部分、どちらが大変でしたか？

A：よく「オリジナルの作品と原作がある作品、どちらが大変ですか？」と聞かれることがありますが、難しい質問ですね。原作に基づいて脚本を描くのもなかなか大変ですし、自由に創作できる部分も、それはそれで苦労があります。なので、どちらが大変かというのはなくて、どちらも大変ですし、そしてどちらも楽しいです。

Q：「あんぱん」は、戦争の描写や当時の人の心情が丁寧に描かれていて心が揺さぶられました。作品を通じて、中園さんが伝えたい「戦争とはなにか」を教えてください。

A：戦争って、弱い人が傷つき、どんなにくだらないことで、どんなに馬鹿馬鹿しくて、どんなに惨めなものかって思うんです。とにかく、絶対に二度と起こしてはいけないものだと思っています。やなせさんも、憎しみを憎しみで返していたら、ずっとそれを繰り返してしまうって考えていました。だからこそ、そうじゃないヒーロー、それがアンパンマンだったんじゃないかなと思っています。私の戦争観もやなせさんの影響をすごく受けています。

Q：「あんぱん」は、中園さんにとってどのような位置付けの作品になりそうですか？

A：この作品は、私自身が書いたというよりも、やなせさんに“書かせていただいた”という感覚が強いんです。だからこそ、作品を通じてやなせさんや暢さんのメッセージが広く伝わったことが、本当にうれしいです。これまで「アンパンマンを書いた人」としか知らなかった方々にも、やなせさんの深い思いや戦争への考えが伝わったのではないかと思います。そういう意味で、私にとっても特別な作品になりました。

Q：最後に、やなせさんのふるさとである香美市に一言お願いします。

A：「あんぱん」放送記念で植樹をさせていただいたんですが、私にとっては初めての植樹で、本当にうれしかったです。これからその木がすくすくと育っていくように、番組の放送が終わった後もやなせさんのメッセージが、香美市から広がっていったら良いなと思っています。やなせさんを生んでくれたこの自然と土地に、心から「ありがとう」と伝えたいです。

中園さん、一つひとつ丁寧に思いをお話しいただき、本当にありがとうございました。

©やなせたかし



巨大な絵本型展示 が 香北町に登場！

東京都中央区の百貨店「日本橋三越本店」で好評を博した企画展「やなせたかしと三越～3頭のライオンとの出会い～」が、名古屋栄三越での展示を経て保健福祉センター香北にやってきました！

この展示は、やなせたかし先生の功績をクイズ形式で楽しくたどる巨大な絵本型展示です。子どもから大人まで、世代を超えて楽しめる内容となっておりますので、皆さんもこの機会にぜひ、足をお運びください♪

◆開催期間：12月28日(日)までの10時～15時

◆場 所：保健福祉センター香北 2階

◆入場無料

やなせたかしと三越

～3頭のライオンとの出会い～

Takashi Yanase and Mitsukoshi
Encounters with three lions



特別協賛：高知県(どっぴり高知旅キャンペーン推進委員会)
協力：株式会社やなせスタジオ 公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団 株式会社フレーベル館

こちら、あんぱん室！ 最終回

祝 スペシャルインタビュー 脚本家 中園ミホさん

Q：「あんぱん」の放送が終了しました。放送を終えた現在の率直な感想をお聞かせください。

A：高知市で行われた最終回パブリックビューイングで、皆さんの反応を直接見ることができて、本当に嬉しかったですし、感激しました。これまでの作品では、視聴者の皆さんと同じ空間で作品を観る機会はほとんどありませんでした。今回、高知の皆さんの“生の反応”を目の当たりにでき、胸がいっぱいになりました。

Q：脚本を執筆するうえで、楽しかったこと、また大変だったことはありますか？

A：毎日の締切は本当に大変で、なかなかしんどいものがありました。それから、のぶ(今田美桜さん)の思春期や青春期を描く場面は、心情的にも苦しかったです。今の平和な時代に、軍国少女を描くというのは、私自身もしんどかったですし、演じる今田さんはどれほど大変だっただろうと、改めて思います。

Q：ご自身に影響を与えたやなせ先生をモデルにした「あんぱん」の脚本を書く中で、特にこだわった部分などがあれば教えてください。

A：最初から、やなせさんを描くということは戦争を描くことでもあると思っていました。戦争の描き方に関してはスタッフの間でもさまざまな意見があり、いわゆる「朝ドラ」的な描き方もいろいろあったかと思いますが、今回はそこにはあまりとらわれず、戦争を思い切って描くということが私のこだわりだったと思います。



Q：「あんぱん」の脚本の中には、やなせ先生の作品がたくさん詰まっています。着想を得たエピソードがあれば教えてください。

A：私、やなせさんの『やなせたかし おとうとものがたり』(フレーベル館)が本当に大好きなんです。あの作品には、弟への愛情と、戦死された千尋さんへの思いが混ざり合っているように感じます。弟を思うとき、やなせさんの中には戦争への気持ちも同時にあったのではないかと考えていて、それが『おとうとものがたり』にも表れている気がします。この作品は、戦争が終わってからずっと後に書かれたものなんですよ。私がやなせさんと親しくさせていただいていた頃は、朗らかで明るい印象しかなく、私自身もまだ子どもでしたから、作品の奥にある深い思いには気づけませんでした。でも、脚本を書くにあたって「一番描かなければならないことは何か」と考えたときに、自然とやなせさんの戦争への思いが浮かんできて、それが私にとっての使命感のようなものになっていました。

『おとうとものがたり』には白黒の挿絵があるんですが、この辺り(香美市香北町)の景色が描かれていると感じました。実際にここに来てみて、「カラーになったら、こんなふうになるんだ」と思って特別な感銘を受けました。だからこそ、ここに住んでいる子どもたちには、ぜひ『おとうとものがたり』を読んでほしいと思っています。

Q：「あんぱん」に出演された役者さんの演技で、驚かされたことはありましたか？

A：みんな本当に素晴らしかったです。北村匠海さんが演じた嵩は、私の知っているやなせさんよりもずっとナイーブな印象でした。でも、実際のやなせさんは、ああいう繊細な一面を持っていた方だったんじゃないかと、今は思っています。子どもたちの前では、明るく朗らかで声も大きくて、まさに“よそいきの顔”だったのかもしれませんが。千尋役の中沢元紀さんも素晴らしかったですし、寛先生を演じた竹野内豊さんも印象的でした。皆さんの演技に心を動かされる場面が多くて、挙げればきりがありません。